

本太中だより

第7号

令和7年10月30日

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

誰もが安心して生活できる社会 違いを認めるって、とても素敵なこと

校長 田中 一秀

2学期が始まって、早くも2か月が過ぎました。夏が終わると、秋はあっという間に過ぎていきます。気づけば2学期も折り返し地点を過ぎ、今年も残りわずかだと感じます。

10月9日(木)に、講師の先生をお招きし、人権集会を開催しました。生徒全員で「人権」について考え、「平和を共に創る」対話ができただことは、大変意義深く、とても嬉しく思いました。

さて、私たち全員が安心して、自分らしく過ごせる社会や学校をつくるには、どうすればよいのでしょうか。私は、お互いの「違い」を認め合うことがとても大切だと考えています。たとえば、学校で意見が分かれたとき、「自分と違うから間違っている」と決めつけるのではなく、「どうしてそう思ったの?」と聞いてみることで、相手の考えを理解しようとする姿勢が生まれます。それが対立ではなく対話につながり、平和な関係を築く第一歩となります。

違いを知ることは、相手を大切にすることであり、争いを避け、心の平和を育てることにつながります。みんなが安心して生活できる社会は、そんな小さな思いやりから始まります。私たちのまわりには、さまざまな人がいます。話す言葉が違う人、趣味が違う人、考え方や感じ方が違う人。けれど、その「違い」は悪いことではなく、むしろ私たちの世界を豊かにしてくれる大切なものです。違いを認めることは、相手を思いやることにつながるのです。

人権は、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」*と定義されており、人間が人間らしく、生きたいように生きる権利、それは、私たち誰もが生まれながらに持つもの、誰にも奪えない永久の権利です。たとえ行動や考え方が著しく違っても、それが自分や他者の自由を侵害しない限り認めることが、人権を守るうえで大切な姿勢です。例えば、女性の参政権獲得など、人権は過去に差別や不当な扱いと闘った先人たちが、声をあげ、命がけて勝ち取った大切な権利でもあります。私たちには、人権を守り育て、次の世代へとつないでいく責任があります。

「自分の言葉を伝えるのは微力でも無力ではない」、「何かを変えるためには、ただ待つのではなく、自分の気持ちを言葉にして、それを声に出して発することが大切」、「声の力で世界を変えることができる」、「言葉の力や、声の力、物語の力で世界が変わることもある」、「声の力とは、人を助けることもできるけど、同時に人を簡単に傷つけることもある」。これらは人権集会後の生徒の感想です。みんなすごい。私は、人権について考えるとともに、本質的な問いに対し、自分に向き合い、自分の言葉で語る生徒を見て、とても誇らしく思いました。

最後になりましたが、10月5日(日)の「教師の日」に関連して、翌6日(月)にはPTA本部役員の皆様が早朝よりご来校くださり、職員へ心こもったプレゼントをお配りいただきました。職員一同、あたたかな気持ちで1週間のスタートを切ることができました。心より感謝申し上げます。

生徒、職員、保護者、地域、みんなにウェルビーイングが溢れますように。

*人権擁護推進審議会答申 「人権尊重の理念に関する国民相互の理解を深めるための教育及び啓発に関する施策の総合的な推進に関する基本的事項について」(1999年)